

おかあさんに学び、東北復興を応援しよう!



宮城県栗原市

宮城県最北西部で岩手県と接する。東日本大震災では最大震度の7強を観測。全壊半壊合計399棟の被害があったが死者、行方不明者は無し(4月7日の地震被害を含む)。電気水道が止まり避難所の集団避難が行われた。復旧後、南三陸町の被災者250人を5ヶ所の避難所に受け入れた。くりはらツーリズムネットワークでは、避難者を無料招待していちご狩りや、旧奥州街道を歩くイベントなどを開催。避難者に喜ばれた。



おかあさんの宿 ③ 宮城県栗原市

千葉 静子さん

有賀の里 たかまった

津波に飲み込まれた町の風景が忘れられない……。

震度7強……。すごい揺れでしたね。体が横に投げ飛ばされるようでした。奇跡的のうちには建物は助かりましたが、地震で倒壊した家も結構あったんですよ。電気が1週間、水道が2週間絶たれ、長い夜が寒くて心細くて、普段の生活がどれほど眩しく思えたか……。やっとライフラインが復旧すると今度は沿岸部の津波の被害が見えてきて、辛

かった。おかあさん100選の「のんびり村」の坂下清子さんとは10年来の友達。坂下さんの被災に心を痛めていた東京のリピーターさんたちと一緒に「のんびり村」に片付けの手伝いに行きました。そこに向かう道、悲劇のあった大川小学校、津波に流された家々、海に沈んだ田んぼ。思い出すと、胸が締め付けられてたまりません。



今、私たちは前向きに進んでいます。ぜひ遊びにきて。

今は、津波のなかった内陸部の私たちが頑張って東北を盛りたてていかなくてはと、前向きな気持ちです。地元の工芸作家さんと連携して「手仕事市」というイベントをしたり、若柳地区の生産者でわかやなぎ農産物直売所「くりでん」も昨年7月にオープンしました。千葉家にあった150年前のレシピを再現する「栗原の食復活プロジェクト」も地元新聞で紹介されました。うちはお蔭様で震災後も宿泊や料理を食べにお客

様に来てくれる。栗原はいい食材が多くてね。マガンが飛来する伊豆沼のほとりで栽培されるレンコンは最上級で、そこでとれる里芋もねっとり甘くて凄く美味しい。なかでも最高のものを農家さんから直接頂き、料理を考えて作って、食べて喜んでもらう。好きなんですよ。お米はもちろん、とうふ、みそ、こんにゃく、梅干、ベーコンも自家製です。さざぼと(宮城県北部の言葉: わきあいあいに)……きてくださいね。



旬の地元野菜を中心にした料理!!

旬の野菜と極上の料理に舌鼓。「有賀の里 たかまった」

なんといっても料理が素晴らしい。旬の地元野菜を中心に丁寧な手間をかけてつくられる料理を一品一品、コースで出してくれる。千葉家に代々伝わる陶磁器や漆器に美しく盛り付けられ、見えて楽しく、食べて至福。「山形の庄内の出身だから、こっちの味とはちょっと違

うのね」という静子さん。料理の修行をしたことは一度もないというが、まるで懐石の名店の味。民宿の夕食で頂けるレベルではない。いっぽう朝ご飯は、ほっこりとやさしいお母さんの味。築130年の蔵を改装した離れに宿泊。高台から望む田園の景色も美しい。

